

「ぎふの米」生産・販売拡大アクションプラン（R8年度～R12年度）の概要

基本方針 消費者に選ばれる美味しい米づくりと需要拡大を両輪で進め、生産量の増加につながる好循環を構築

生産対策

① 消費者や実需者に選ばれる米づくり

- 「清流のめぐみ」・「にじのきらめき」など、高温耐性品種の導入を推進
- 良食味で高温等の様々な環境に対応する品種づくりや栽培方法の開発を推進
- 「ハツシモ」などの増肥効果の実証、栽培日誌の分析等により栽培技術を確立
- 土づくりの励行等の基本技術や上記開発技術等の普及を推進
- 再生二期作の導入など、品質や単収向上に資する新たな生産方法への転換を推進
- 「みどり認定制度」にGAPの考え方を取り入れた岐阜県独自の制度を創設
- 有機農業に参入する農業者支援や栽培技術の開発・普及と、流通構築を推進
- 「酔むすび」等、酒造好適米の安定生産技術の確立・普及を推進

持続可能な米づくりを支える2つの取組

② 生産性の向上によるコスト低減

- 地域計画のブラッシュアップによる将来の受け手への農地の集積・集約化を推進
- スマート農業の導入拡大、直播栽培の確立等による農業の効率化・省力化を推進
- 区画拡大や複数の区画をまとめる大区画化、農業水利施設の計画的な更新を推進
- イノシシ等による農作物被害を軽減するための集落点検の強化、広域捕獲等を推進

③ アグリパーク構想の実行等による担い手の確保

- 農業に関わりたい人と稲作経営体とがマッチングできる仕組みを構築
- 農業大学校において、稲作の先進農家等と連携した実践的な技術研修を強化
- 企業・団体職員や公務員など、多様な人材の兼業・副業による農業への参画を推進
- 農業者と非農業者の連携による農地や水路等の維持管理を推進

流通・販売対策

① 流通実態の把握

- 米の生産から販売までの流通状況や価格について、官民連携により流通事業者を中心に聞き取り調査を実施
- 上記調査結果を関係機関・団体と共有し、消費者の安心や販路拡大につなげる取組へ反映

ターゲットに合わせた効果的な販路拡大

② 県内

- 直売所などで予約販売・定期購入する仕組みづくりを支援
- 県産米に触れる機会の拡大に向け、稲作体験等を情報収集しSNS等で発信
- 学校給食での県産米使用や児童生徒と生産者が交流する取組などを推進
- 加工用米や米粉用米などについて、実需者とのマッチングを推進
- 飲食店と連携し、県産米のプロモーションを実施

③ 名古屋圏等の大都市

- アンテナショップ「ギフツプレミアム」に県産米コーナーを常設し予約販売を実施
- 名古屋市の飲食店等を対象に需要調査を実施し、その結果を踏まえマッチングを推進
- 飲食店、卸売業者等を産地に招き、生産現場で県産米の魅力を紹介
- 販売事業者と連携し「ハツシモ」・「清流のめぐみ」などの県独自銘柄をPR
- 百貨店において、高価格帯の銘柄米のプロモーションを実施

④ 海外（インバウンド含む）

- 県産米を差別化し販売できる地域商社を育成
- 「ハツシモ」等の特徴を生かした「すし専用米」等の商品開発・販路開拓を推進
- 大ロットでの集出荷体制を構築し、大手卸売業者による販売ルートを確立
- 外国人旅行客向けの食体験コンテンツづくりを支援し、その魅力を発信
- 旅行客が帰国後も継続的に購入できる仕組みを構築